

# 人権だより

No.328 (2025.10)

## ゆ そだ じんけん 『揺れながら育つ人権のまなざし』

しんろか まつうら いっせい  
進路課 松浦 一晴

私が「人権」についてきちんと考えるようになったのは、アメリカで起きた同時多発テロ以降だと思う。君たちがまだ生まれていない2001年9月11日、4機の飛行機が過激派グループに乗っ取られ、そのうちの2機がニューヨークの高層ビルに衝突した。翌日のテレビには、崩れしていくビルや逃げ惑う人々が何度も映し出され、現実とは思えない光景に世界中が言葉を失った。



事件の後、「テロは絶対に許されない」という言葉が毎日のように流れている。その強いメッセージに、私も「テロは人として絶対にしてはいけないことだ」と感じた。でも、大学である先生の話を聞いて、心が揺れた。その先生はこう言った。「テロを起こした背景には、不公平な扱いを受け、声を上げる手段も持てなかつたという事情があるのかもしれない。もちろん、彼らの行動は許されるものではないが、その理由を知ることは大切だ」と。私はその言葉に戸惑いながらも、「なぜそんなことが起きたのか」を考えるようになった。

「9.11 テロ」以降、私は「人権を考える」とは、物事の一つの面だけを見て決めつけることではないと理解した。社会には、「これは正しい」「これは間違っている」といった強い意見があふれている。でも、その裏には見えにくい事情や語られていない思いがあるかもしれない。だからこそ、「本当にそうか?」「他の立場から見たらどうなのか?」と、自分で考えることを大切にしたい。人権を大切にすることは、何かを一方的に悪いと決めつけることではなく、その人がどんな状況にいたのか、どんな思いを抱えていたのかに目を向けることだ。それは、時に自分の考えが大きく揺れるような経験になるかもしれない。でも、その揺れの中にこそ、人権を大切にするためのヒントがあるのだと思う。

今日の6限、人権同和教育に関わる授業が行われる。担任として授業を準備する中で「本当にこれで良いのか?」という疑念が絶えなかったことを覚えている。それくらい、人権に関わる問題は難しい。君たちの担任は、今日のために全力で授業の準備をしてきた。君たちも今日の授業を通して、自分の頭でじっくりと考えてみてほしい。その姿勢こそが、他者を尊重し、より良い社会をつくる第一歩になると私は信じている。

## 【保護者の声】 文章を読んだ PTA 人権委員の方の感想です。

同時多発テロから2年後、歌手一青窈さんは、事故発生現場にいた友人からのメールに衝撃を受け、「ハナミズキ」という曲を作りました。世に出る前の歌詞には、「テロ」や「散弾銃」といった挑発的な歌詞もあったようですが、「君と好きな人が百年続きますように」に書き換えられました。その背景には、松浦先生が書かれたように、一青さんの心が揺れ動いたのだと察します。心が揺れ動く時こそ、真摯にその出来事と向き合っている状態だと思います。子どもたちには、心が揺れ動く日々を大切にし、人権についていつも真摯に向き合ってほしいと思います。(5年生保護者)

## 【人権委員の声】

ある1つの出来事でも、見方、立場によって善悪は変わってくると思っているので、これは悪い、これは良いと決めつけるのではなく、色々な面から物事を見て、考える事を大事にしたいと思いました。(4年生 人権委員)

私自身、「みんなが言っているから」と思い、一部表面しか視野に入っていませんでした。これから的生活の中で様々なことに対面し、悩むかもしれません、物・事だけに注目して良い悪いを勝手に決めつけず、人の気持ちにも目を向けて正しく対処したいです。(4年生 人権委員)

戦争やテロの犯人や加害者が完全に悪のように扱われるのにはものすごく抵抗を感じていました。松浦先生が書かれているように、人道的に許されない行動をしているのは事実ですが、その背景には様々な事情があることを忘れてはいけないと改めて思いました。そして、人権問題に“絶対的な正しさ”なんてないし、逆にそういう考え方の押しつけ合いが新たな差別を生み出す原因にもなり得るので、多様で寛容な考え方を持つことも忘れないでいたいと思いました。(6年生 人権委員)

## 人権教育相談課より

ほんじつ じんけん どうわきょういくがっかつ ねんせい こはるびより まな けっこんさべつ ねんせい  
本日の人権・同和教育学活では、3年生は「小春日和」から学ぶ結婚差別、4年生は「デー  
ト DV～被害者にも加害者にもならないために～」、5年生は「『解放令』と新たな差別との闘  
い」、6年生は「結婚問題の解消に向けて」について学習します。  
ひとり じぶん かんが ゆうき だ いけん はっぴょう まな ふか きかい  
一人ひとりが、自分ごととして考え、勇気を出して意見を発表しあい、学びを深める機会にし  
ましょう。